

令和7年度 事務事業マネジメントシート		段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価					6522	旅行誘客推進事業（インバウンド・国内交流）				文化スポーツ観光部	観光政策課
1 事業概要		中事業番号		849								所属コード	165000
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段	意図（目的）	
大綱（取組）	Ⅱ「交流・観光の未来」	17.17		2-1						○	国内外に発信する自慢の地域資源を生み出すため、コンテンツやツアー造成を行い、誘客のための観光PR・商談を実施する。	外国人観光客の誘客（インバウンド）や国内旅行者の誘客（国内交流）を図り、地域消費による地域の経済活性化を図る。	
施策	3 たくさんの人が「また来たい」、「住んでみたい」と思えるまち												

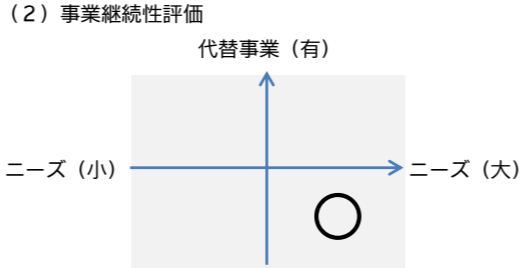
事業開始時周辺環境（背景）		現状周辺環境		今後周辺環境（予測）		住民意向分析	
コロナによる変化やコロナ前からの課題を踏まえ「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」をキーワードに、「持続可能な観光地域づくり」「インバウンド回復」「国内交流拡大」に戦略的に取り組むための「観光立国基本方針」が閣議決定（R5.3.31）された。		新型コロナウイルス感染症が5類への移行（2023.5月）及び円安の影響もあり、訪日インバウンド旅行者が急増。2024年1月～12月の1年間で過去最高である約3687万人が訪れ、さらには2025年1月の訪日外国人は378万人となり、単月としての記録も更新した。また、福島空港の定期便が再開され、県内への外国人旅行者は「台湾」からが1位となっている。		円安の状況が続いており、より一層の訪日外国人の増加が見込まれる。本市においても国内外の多様なニーズに応えることができる豊富な観光資源を有していることを再認識し、コンテンツ、ツアー造成などのソフト面、受入環境整備等のハード面の両面から観光旅行者を歓迎するまちづくりに努める必要がある。		インバウンド誘客・国内交流による地域消費への期待が大きい。一方、他自治体であるように住民の生活が不便となるオーバーツーリズム対策への配慮が求められている。	

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和4年度）		2023年度（令和5年度）		2024年度（令和6年度）		2025年度（令和7年度）		2026年度（令和8年度）		2027年度		2028年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度
対象指標	日本を含めた世界の人々（人口）	100万人		7,975		8,045		8,119		8,192		8,192				
活動指標①	商談件数（FC・旅行）	件		28	30	195	30	208	60		60		60	60		
活動指標②	コンテンツ及びツアー造成数（新規・磨き上げ）	回		5	5	12	5	14	10		10		10	10		
活動指標③																
成果指標①	外国人宿泊者数（延べ宿泊数）観光庁宿泊旅行統計調査参照	人	4,000	3,505	4,000	13,486	5,000	19,674	8,000		10,000		12,000	12,000	14,000	8,000
成果指標②	日本人宿泊者数（延べ宿泊数）観光庁宿泊旅行統計調査参照	人	600,000	522,886	600,000	647,548	600,000	658,871	600,000		600,000		600,000	600,000	600,000	600,000
成果指標③	観光入込客数	人	5,000,000	3,027,523	5,000,000	3,692,220	5,000,000	3,992,984	5,000,000		5,000,000		5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
単位コスト（総コストから算出）	旅行者1人あたりのコスト（観光入込客数）	千円		0.014		0.015		0.012	0.011		0.011		0.011	0.011		
単位コスト（所要一般財源から算出）	旅行者1人あたりのコスト（観光入込客数）	千円		0.010		0.010		0.008	0.005		0.005		0.005	0.005		
事業費		千円		23,831		42,129		32,497	14,149		46,000		46,000	46,000		
人件費		千円		17,569		14,619		17,384	8,500		8,500		8,500	8,500		
歳出計（総事業費）		千円		41,400		56,748		49,881	22,649		54,500		54,500	54,500		
国・県支出金		千円		6,618		10,453		11,270	5,392		30,000		30,000	30,000		
市債		千円														
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円		1,060												
その他		千円		4,538		8,035		5,186								
一般財源等		千円		29,184		38,260		33,425	17,257		24,500		24,500	24,500		
歳入計		千円		41,400		56,748		49,881	22,649		54,500		54,500	54,500		
		実計区分	評価結果	継続	継続	継続	拡充	拡充		拡充						

活動指標分析結果		成果指標分析結果		総事業費（事業費・人件費）分析結果	
【国内交流】FC業務においては、ロケ候補地の棚卸、データベース化を行い、商談に活用、夏冬で30件の商談を行った。また、イナイチや静岡の湖南体験など地域資源を活かしたコンテンツの磨き上げや地域の事業者と連携し、コンテンツ開発（木をテーマとした「郡山の暮らし旅」、郡山KARAPP0）を行い、151件の商談を行った。		国内交流、インバウンドの双方とも、施策が成果としてすぐに示されるものではないが、円安や国際便の就航再開などの外的要因も相まって、すべての成果指標において増加傾向が見られる。令和6年1月から福島空港への台湾便が再開し郡山市への外国人宿泊者数も過去最高を更新しているが、県内他市と比較すると増加率は鈍いことから、今後もインバウンド旅行者の増加・国内旅行者の「来郡」気運醸成に向け、引き続き郡山市ならではの体験を活かしたコンテンツの造成を行いながら、旅行者が郡山市を選ぶ「理由」を提供していく必要がある。		【事業費】事業費が大きく増加した2023年度（令和5年度）と比較すると約1,000万円の減額となったが、国・県・その他交付金の活用をし、一般財源のみに依らない財源の確保に努めるとともに、これまでの商談等によりできた繋がりにより、新規の問い合わせや観光資源の掘り起こしにも取り組むことができた。	
【インバウンド】台北市で行われた「東北遊楽日2024」に出展し、19件と商談を行った。また、都内で開催された「ふくしま観光商談会」においても国内の旅行会社と8件の商談を実施。さらには、台湾、タイ、シンガポールを対象にアンケートやファミツアーを開催するなど、商品造成のためのPRに努めた。				【人件費】福島空港の台湾定期便化やJR東日本の特別観光列車「SATONO」のデビューなど、外的要因による新規の取り組みが増えており、人件費は2023年度（令和5年度）と比較し、約270万円の増額となった。	

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価				
1 規模・方法の妥当性		4		
2 公平性		3		
3 効率性		4		
4 活動指標（活動達成度）		4		
5 成果指標（目的達成度）		4		



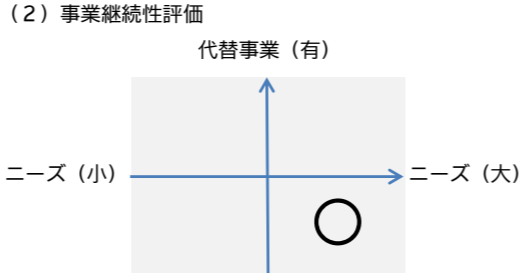
拡充	一次評価コメント
国内交流については、イナイチやフィルムコミッションを活用した誘客事業の促進を図っており、インバウンドについては台湾・タイをターゲットとし、集中的に事業を展開している。特に台湾は、教育旅行誘客のため台北市政府教育局との覚書締結に向けて取り組んでおり、引き続き福島県や福島県観光物産交流協会、東北観光推進機構、JNTOなどの関係機関と連携を図っていく。 今年度未策定予定の（仮称）郡山市観光戦略ビジョン、11年ぶりの開催となる「ふくしまデスティネーションキャンペーン」、猪苗代湖のラムサール条約登録（予定）などを好機と捉え、郡山市観光協会、こおりやま広域観光協議会、郡山コンベンションビューローなどと協力し、文化・スポーツ・観光を融合した本市の魅力を発信し、国内外からの誘客にさらに取り組んでいく。	

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）
					○

気候変動対応	D X（デジタル市役所）	部局間協奏
	○	○

4 二次評価

(1) 事業手法評価				
1 規模・方法の妥当性		4		
2 公平性		4		
3 効率性		4		
4 活動指標（活動達成度）		4		
5 成果指標（目的達成度）		4		



拡充	二次評価コメント
本市の観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響から大きく回復傾向にあり、昨年度対比では全ての指標において増加が見られる。特に郡山市への外国人宿泊者数は過去最高を記録しており、さらなる観光誘客拡大が見込まれる。こうした環境の下、本市では、観光資源を活かしたコンテンツの磨き上げや地域事業者との連携の強化が図られ、持続可能な観光地域づくりが進められている。 観光入込客数は増加傾向にあり、国内旅行者及び訪日外国人旅行者を対象に、引き続き魅力的な観光体験を提供することが求められる。円安や国際便再開などの外的要因を活用しつつ、郡山市歴史情報博物館の開館や開成山区体育施設のリニューアルオープン・トップスポーツチームとの連携等、文化・スポーツ・観光を融合しながら、拡充して事業を実施する。	

(参考) 令和6年度カイゼンのための行動計画